名古屋幼稚園大会に行く

午後二時頃

千人の心一つに進みゆく意気はこらしあ幼稚園大会

公会堂にホールに幼稚園の小集団のつらなる絵へ

師と博士と保育園のここと語り告げ舞台を見る目的のうろこし繰へ

旅宿にて

升半（茶の舎）に電話をかく女性の声優がなりこきしけてあくし（この地の言葉耳に柔かな）

つくばひにしずくする音を支那のこの朝にしみじみと聞く

つくばひのかたへーもと山茶花は白き花なり後にして知る

人を待ちて旅宿にひそりこありし時心逝く身にかへり来ぬ朝より多くを人にあひたれば
廊にきく人のけはひにうたねの夢よりきめて秋の夜を知る

夜の名古屋

この市街の文様の赤き旗の珍らし
店々を見る

テオシーアイのいまだ一つなり中京の夜街をこゝの旧友をゆく

仏像の奈良へひこりの旅するこゝ雲ひたる友と夜の驛に別る

幼稚園にて

ロシャ迄行くこゝ云ひし子積木めて小砂利が上をひた走り行く

くづれ又づれ重ねて完成す午後の礫場に積木の橋

折に

人交はり淡きがよしき知りつゝもそれは心裏を行く